

指勘組子

建具展

黒田之男・裕次
父から息子へ技の伝承

組子とは、釘を使わずに木を組み付ける技術のこと。古く室町時代に書院造りとともに発展したとされ、窓、障子などの建具や欄間の格子などにほとんどこされる日本の伝統技法のひとつです。「後光組」「六方転」など独自の意匠を考案し、現代の名工にも選ばれた、二代目・黒田之男（1945）。その技術を継承する若き三代目・黒田裕次（1976）。先代から受け継ぐ伝統を守りながら、時代に合わせた意匠の数々を紹介いたします。

2020

5/28 [木] - 7/28 [火]

会期中無休

開館時間/9:30~17:30(入館は17:00まで)

会場/パラミタミュージアム2階 第5室

入館料/一般1,000円(4枚セット券3,000円)/大学生800円/高校生500円/中学生以下無料

主催/公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム

後援/中日新聞社、朝日新聞社、読売新聞社、三重テレビ放送

関連イベント/

黒田之男・裕次による作品解説会 6月21日(日) 14:00~

同時開催/第15回パラミタ陶芸大賞展

同時開催/笹岡基三陶展

上:「光輪」2011年/指勘建具工芸
下:「名古屋城」2001年/指勘建具工芸

paramitamuseum

公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム